

# 塩見橋



2001



宮崎県

### 塩見橋の歴史

富高財光寺通線（県道土々呂日向線）は、江戸時代、日向から薩摩に至る重要な街道であったことから、塩見川にも橋が架けられていたようです。

しかし、宝永年間(1704～1710)の津波で壊れたあと、長い間、橋は架けられず、人々はとても苦勞しました。

文政年間、この状況を見た代官の塩谷大四郎正義は、この地方の有力者の協力を得て「初代塩見橋」を架けました。当時の橋は、石垣で築いた「馬除け」がある立派なものでした。

昭和26年、交通量の増加や大型化に伴い、コンクリート製の「2代目塩見橋」が架けられました。当時は、国道10号がここを通っており、塩見橋は、日向市だけでなく入郷地区や県北地域の発展に大きく貢献しました。

その後、下流に「塩見大橋」が架けられ、国道10号は現在の位置に移りましたが、「塩見橋」は日向市中心地と財光寺地区を結ぶ交流拠点として、また、入郷地区の玄関口として、経済や産業、文化を支える大切な橋なのです。

### 事業の目的

- ① 車道幅を広く取って国道327号との交差点の渋滞を解消するとともに、両側に歩道を設け安全な交通を確保する必要があります。
- ② 現在の塩見橋(2代目)は川から橋桁までの高さが低く、また、川幅も狭いため、橋を改良して河川の安全性を高める必要があります。



初代塩見橋 昭和20年頃

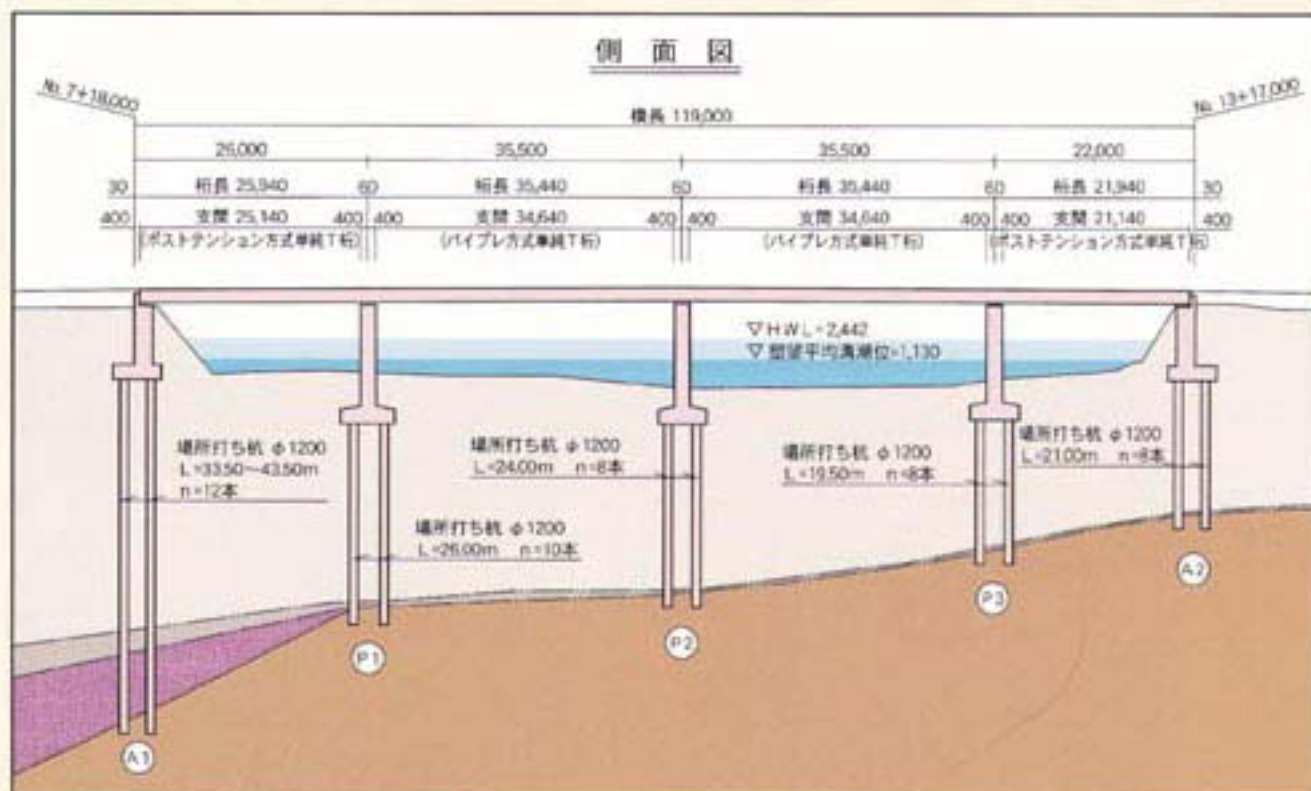
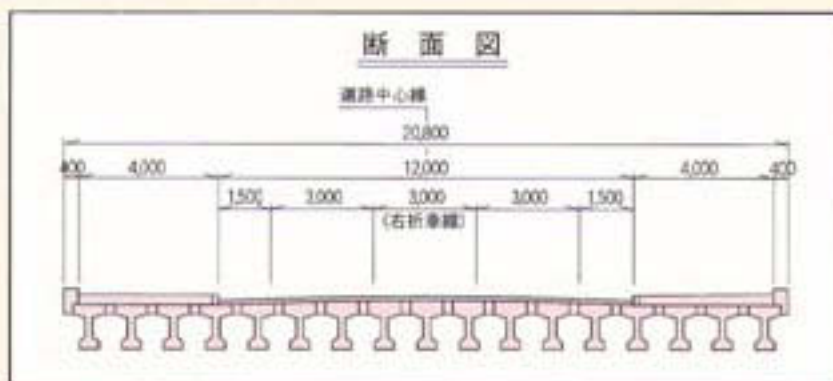
## 街路事業の概要

位置：日向市財光寺  
 事業種類：街路事業、河川改修事業  
 道路規格：4種2級  
 設計速度：40km/h  
 延長・幅員：L=322m W=6.0(20.0~18.0)m  
 全体事業費：約23億円(河川費含む)  
 事業年度：平成7年度～平成13年度

## 塩見橋の概要

橋長：L=119m  
 幅員：W=9.0(20.0m)  
 構造形式：4径間ポステン+パイプ方式単純T桁橋  
 工事費：約13億円(河川費含む)  
 工事期間：平成9年度～平成12年度

## 一般図



## 施工の概要

塩見橋は、まず、下流に仮栈橋を設置し、橋台と橋脚を作りました。その後、右岸のヤードで橋げたを製作し、門型クレーンを使って橋げたを架けました。



橋台、橋脚の完成



仮栈橋での橋台・橋脚の施工



橋台



桁の製作



桁の設置

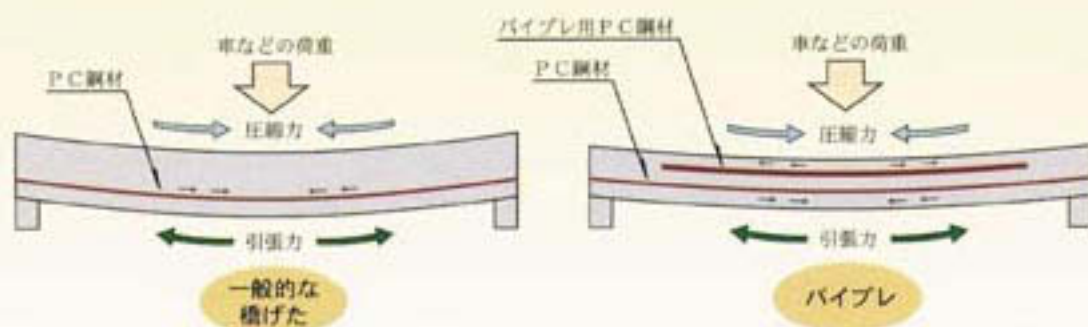


橋桁の完成

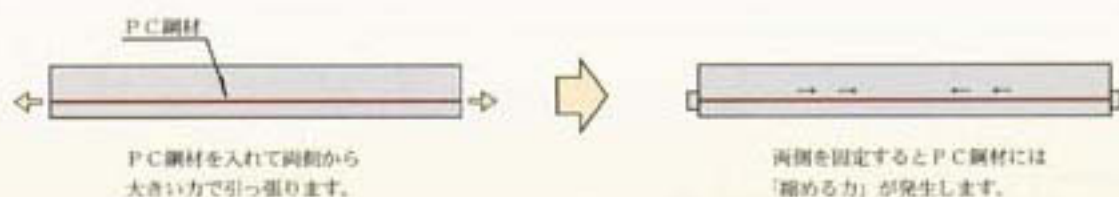
## バイプレストレスリング工法の採用

塩見橋は左岸側で国道327号と交差しているため、橋の高さを極端には上げることができません。また、橋の桁下高は、河川の計画水位に余裕高を加えた高さ以上が必要です。

そのため、橋桁の厚さをできるだけ薄くする工法として、バイプレストレスリング工法を採用しています。



橋げたに車などの重さがかかると、橋げたの下側は両側に引っ張られ、上側は縮もうとします。そのため、普通は橋げたの下側にPC鋼材で「縮める力」を加えて、橋げたが上からの荷重に耐えられるようにしています。



塩見橋ではさらに上側に、バイプレ用PC鋼材で「伸ばす力」を加えているので、橋げたを薄くしても荷重に十分耐えることができるのです。



## 景観に配慮した設計の採用

日向市では「うるおいと生きがいのあるまち」を目指し、中心市街地の整理に取り組んでいます。

富高財光寺通線はその骨格となる路線であり、塩見橋周辺は、賑わい、ゆとり空間として、地域の伝統文化や自然環境等の特性を活用しながら、市民生活になじみ親しまれる公共空間として位置付けされています。

そのため、新しい中心市街地の玄関口として、市民に親しまれるように自然石の歩道やデザイン性の高い照明、高欄を用いるなど、景観に配慮した設計を採用しています。

塩見橋では、地元の人たちのいろいろな意見を聞きながら、日向市や、専門のデザイナーと協力して設計を行いました。



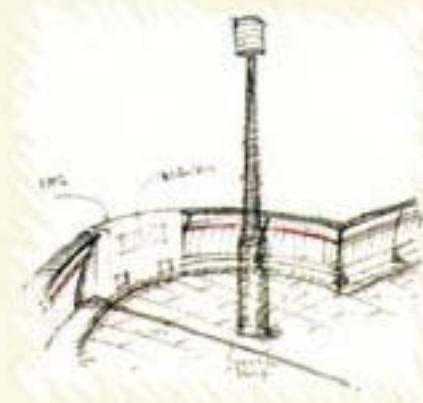
現地での調査



デザインの検討会  
(右端がデザイナーの南雲氏)



塩見橋の模型





親柱

### ● 親柱

橋のシンボルとして重厚感を持たせました。また、照明を設置し、橋の照明とともに全体の流れをつくりました。

### ● 高欄・歩道・照明

普段この橋を通る人の気持ちや周囲の景観を考え、柔らかく親しみのあるイメージを持たせました。木製(天然ブナ)の補助手摺りや足元照明など歩行者が安心して通れる工夫も行っていきます。



高欄、歩道、照明



バルコニー、石高欄

### ● バルコニー・石高欄

川面や周囲の自然をゆっくり楽しむことができる「憩い、語らい」の場を提供しています。石高欄には、「塩見橋の歴史」、「日向市と中国イボウ市の交流の記念」が刻まれています。



全景(夜間)

塩見橋の歩道、親柱、石高欄には日向市と友好都市である中国山東省イボウ市の御影石が使用されています。

